

100年先に伝えていく毛呂山の歴史遺産

# 鎌倉街道

第6回 毛呂山の「鎌倉街道」の未来に向けて

図 歴史民俗資料館 049(295)8282



広報もろやま平成31年2月号より、5回にわたって「鎌倉街道」の特集を掲載してきました。

最終回の今回は、貴重な歴史遺産である「鎌倉街道」と周辺の豊富な文化財、豊かな自然に対してどのように目を向け、未来に伝えていけば良いのか考えてみましょう。

## 「鎌倉街道」と「古墳の森」 〜歴史遺産と自然との調和

歴史民俗資料館西側の「鎌倉街道」が通る森のなかには、川角古墳群を構成する小さな古墳がたくさんあり、歴史遺産と自然がよく調和しています。身近な文化財、歴史を肌で感じることはもちろんですが、新緑の美しさ、夏は木々に囲まれた街道を涼風が抜け、秋には紅葉と季節ごとに姿を変える「古墳の森」を堪能

ことができます。

美しい「古墳の森」の景観は、平成15年度から地権者の方々やボランティアの皆さんの協力により続いている除草・清掃作業によるものです。一年を通じて散策が楽しめる環境があるのは、多くの人が携わった結果といえるでしょう。



特徴的な「鎌倉街道」の景観を守る除草・清掃作業

「古道を楽しむ会」のようなボランティアサークルも、散策事業を通じて「歴史遺産と自然との調和」の大切さを伝えてくれました。



「古道を楽しむ会」による鎌倉街道散策



中世の面影を残す毛呂山町の「鎌倉街道」と自然豊かな林

## 「鎌倉街道」と「古墳の森」

魅力伝えるのはコミュニティ

毛呂山町の「鎌倉街道」は、埼玉県内屈指の保存状態を誇り、かつて「苦林野」と呼ばれたこの一帯は、室町時代の歴史書『太平記』にも記された合戦の舞台であり、歴史遺産の宝庫といわれています。街道と越辺川が交わるこの場所に、苦林宿が設けられました。また、古代から江戸時代まで様々な文化財が集まり、さながら時空を超え「歴史の交差点」のような空間です。

「鎌倉街道」と「古墳の森」を100年先、未来へ伝えていくのは、文化財ガイドボランティアのほか、歴史・文化と自然に親しむことで生まれる人々の「コミュニティ」です。

「鎌倉街道」と同じ「歴史の道百選」に選ばれ、後に世界遺産になった「熊野古道」の魅力伝えることができるのも熊野古道を愛してやまない人の力といえます。

これから「鎌倉街道」と「古墳の森」で生まれる「コミュニティ」も、やがて郷土愛に満ち溢れ、魅力を伝えてくれる子どもたち「ジュニアガイド」を育ててくれるでしょう。

## 町の無料相談

相談種類		日にち	時間	相談場所	申込み・問合せ
法律相談	弁護士	1/14(火)、1/27(月) 2/12(水)、2/25(火)	13:30 ~ 16:00	役場会議室	役場総務課 ☎ 313 (要予約)
	行政書士	1/15(水)、2/19(水)	10:00 ~ 15:00	役場会議室	役場総務課 ☎ 313
人権・行政相談		1/9(木)、2/13(木)	13:30 ~ 16:00	役場会議室	役場総務課 ☎ 313
成人健康相談		1/20(月)	9:00 ~ 12:00	保健センター	保健センター ☎ 049 (294) 5511
		2/6(木)	9:30 ~ 11:30	役場町民ホール	
電話健康相談		平日	9:00 ~ 17:00	保健センター ☎ 049 (294) 5511	
育児ほっと相談室		1/7(火)、2/3(月)	10:00 ~ 11:45	保健センター ☎ 049 (294) 5511	
もの忘れ相談会		毎月第3木曜日	10:00 ~ 12:00	中央公民館	地域包括支援センター ☎ 049 (295) 2112 ㊟ 126
子育て相談 なんでも話してみよう		1/10(金)、2/14(金)	10:00 ~ 11:00	役場相談室	子育て支援センター ☎ 049 (294) 4820
		1/24(金)、2/28(金)		子育て支援センター	
教育相談		平日	10:00 ~ 16:30	教育センター ☎ 049 (295) 2525 (電話相談可)	
心配ごと相談		毎週水曜日	10:00 ~ 12:00	社会福祉協議会(ウイズもろやま内) ☎ 049 (295) 3111	
消費生活相談		毎週火曜日	10:00 ~ 15:00	役場相談室	役場産業振興課 ☎ 214
生活困窮者自立相談 ※生活保護受給者以外		平日	8:30 ~ 17:00	アスポート相談支援センター埼玉西部毛呂山出張所 (ウイズもろやま内) ☎ 080-2274-1445	

## 歴史散歩

第308回

古墳時代の器  
はしきすえき  
土師器と須恵器

古墳時代は、大阪府の大山古墳(仁徳天皇陵古墳)に代表されるように、大王や地方豪族をはじめとする有力者の大きなお墓である古墳が造られた時代で、3世紀代にはじまり、7世紀末から8世紀初頭ごろまで続きました。

毛呂山町の古墳時代の遺跡は、集落遺跡と古墳(群)に大別されます。集落遺跡を発掘調査すると、竪穴住居跡などからおもに「土師器」という器が出土します。土師器は弥生土器の流れをくむもので、野焼きで焼かれた茶褐色のやや軟質の土器です。7世紀初頭前後のムラの跡である久根下遺跡(大字西戸)の竪穴住居跡からは、煮炊きや食器に使われた様々な土師器が出土しました。

一方、越辺川流域を中心に分布する古墳からは、土師器とともに「須恵器」という器が出土します。須恵器は、古墳時代中期(5世紀)以降、朝鮮半島から製作技術が伝わり生産がはじまりました。窯を使って高温で焼かれた青灰色の硬質の土器です。毛呂山町に近い比企地域では、西暦600年前後には須恵器生産がはじまった

ことがわかっていきます。

久根下遺跡とほぼ同時期の古墳群である西戸古墳群の2号墳の石室(死者を埋葬した古墳の中心部)からは、須恵器の長頸壺とよばれる、クビの長い壺が出土しました。同じようなかたちのは、西戸古墳群から南へ約1キロ離れた位置にある鎌倉道遺跡(大字市場)で発掘された古墳の石室からも出土しています。こちらは、8世紀の初頭まで下る壺でした。これらは、古墳の副葬品にふさわしい器であったようです。

土師器も須恵器も、時代とともに移り変わりが、奈良・平安時代まで使われましたが、時代が新しくなるにつれ、集落遺跡でも須恵器が日常の食器などに多く使われるようになっていきました。

歴史民俗資料館では、ただ今開催中の企画展のなかで古墳時代の土師器や須恵器を展示しています。古代の器の文化をぜひご覧ください。



古墳時代の土師器と須恵器  
左5点：住居跡出土の土師器  
右2点：古墳出土の須恵器